



後天物諸書

後天物諸
全九冊
八十二卷

13
1295
10



門 へ 13
號 1295
卷 10

漢

切末





海子内浪後着忍月録

牙一



細冠う暇多入役之申

海 三宅元実申

子部 穿ね佐ふ景申

海 藤原級下申

渡

吉兵衛



才二

海子 栢と 栢と 栢と 栢と

海子 栢の 栢の 栢の

海子 子んと 栢と 栢と

海子 栢と 栢と 栢と

才三

海子 栢と 栢と 栢と

海子 栢と 栢と 栢と

海子 栢と 栢と 栢と

海子 栢と 栢と 栢と

才四

海子 栢と 栢と 栢と

海子 栢と 栢と 栢と

一 梨林子木名の皮

一 海一合と脚り海の中

身六

一 常沖惚の中

一 海北名の大船の中

一 山海の本家言の片の中

一 海傳奏所習りの中

一 吳中連真物使の中

一 海友藏正とらの中

身六

一 海奏閉門中免の中

一 海西よとと腔の療名の中

一 海周と源孫名の中

一 海傳云名の中

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

中七

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

中八

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一 乳母人自害の事

一
紙を精念の中
時 貝文の結業は
後

中九

一
王良紙を寺莊嚴の中

時 皇花女の中

一
海部佛会村と接の中

時 大原の帝騰流の中

一
海部海約の中

時 途世大生牛の中

海天山張後海全部九冊目録

維時安永八年己卯月日

上拍

撰者 百華堂

海天山張後海第一

目録

一 辨冠^{かん}う^う眼^{がん}身^{しん}海^{かい}心^{しん}半^{はん}

一 附 宅^{たく}老^{らう}更^{せい}半^{はん}

一 子^し部^ぶ宰^{さい}お^お不^ふ具^ぐの^の更^{せい}

一 附 辨^{はん}尔^に家^け級^{けい}下^げの^の半^{はん}

海天の浪は波々一

群翔る眼身は空の半

時 三宅老筆の筆

諸氏と連珠は雲と雲の如し
海部は海を成り、海部のいよは
中東より海に流るる海風は
大眼の如し、海部の法作百士の
百眼の如し、海部の法作百士の

つゝし又の例法よめころころあまなる
けとゆきんまわるところとく
ちの字もつれあすまめくころめ
かたね字よのの夜ゆめを同義を
よん長長よとくま切りりりり
長長よのののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの

後さうの時の話とせんあふ今ふ
おしゆはゆきんまわるところとく
かたね字よのの夜ゆめを同義を
よん長長よとくま切りりりり
長長よのののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの
よののののののののののののの

まのこはふりし入にけりやも
けしきやあらむ首成してそひ
がの時ふり部率ねりしに海
南由人海りしひるにに義の地
うまは海をさるわえう成重の
あふのしりしわのしきれ智に何
とぞゆなれ侍らむ控らむゆさ
しとゆひひねらちまふも甚
むよめゆしはまいぬ海に海部

まのこ入海りししりきそくま
あなしあはゆ人海まうしり
ま重のゆふゆらむに能るゆ
かたのゆのゆもまふも海ゆの
あふゆゆふゆらむことま
入らまらう時ふり部率ねりし
ゆらまらうのゆゆらむゆら
へしきゆのゆゆらむゆらむ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

きぬのりしよきもあはしくするこそは
まへにあらぬとていふ事動あひ
那半おあ人強とさうくうんあ
う強日ゆへ編りしゆふゆと強
ゆふのゆふゆふゆふゆふゆふ
申うと強あゆゆゆゆゆゆゆ
のうふ長下れゆふゆゆゆゆゆ
ゆらきしゆふゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
十支ふゆふゆゆゆゆゆゆゆ
すゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
とゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

怪殿うらハ残ぬのしらきり河のま
らくも色りふ端まへしきりむ
うらくきの月なきわきないよく
あぶら半ぬの徳志のあなまとの
西花之幸一月十下ふ浦山海ま
うらくとあぬしむははま
ふはゆりまぬうは半の
河とまねそてに月たうふ対列ふ
あはぬしけり〇對ふちあへま

まぬいそまを解てけくぬと出
ぬしきり海の家ふまぬし
あぬぬのいそく眼ゆへま
あふ浦系友ゆまわく池毛ぬぬ
くあひく家ゆふけまく對顔と
まぬあな半あぬましと友の予
あはぬ半あきりたぬふひさくぬぬ
うらけりまもや時列も半た列
あはぬまをりたぬまぬ勝

忠んを免るる多とて大なる事
こゝろを以てしるに免るる事
はるかに強いに永年申すに
の如く小守友系職降城築
時今より百有餘年天正元年
御家流初守秀老も利を説き
あひし時ふま可ぬ御用ま
りしころぢんをいふはあ
く忠用もたぢんをいふはあ

忠んふまひしゆに免るる事
こゝろを以てしるに免るる事
はるかに強いに永年申すに
の如く小守友系職降城築
時今より百有餘年天正元年
御家流初守秀老も利を説き
あひし時ふま可ぬ御用ま
りしころぢんをいふはあ
く忠用もたぢんをいふはあ

きねく正月に年時ひりては
新守法に名を白くん之宅を
有る法がたかきく多分中
世に於てし用人法なり
忍ぶの者多かれとも世の世
いしこわくしと年長はこ
ういしと新守法に名を
くくきねく多分中
十歩一ふ及びぬとも
ぬめりて

るやまひくきねく
いしこわくしと年長は
ぬめりて
りて

新守法に名を白くん
有る法がたかきく多分中

きねく正月に年時ひりては
新守法に名を白くん之宅を
有る法がたかきく多分中
世に於てし用人法なり
忍ぶの者多かれとも世の世
いしこわくしと年長はこ
ういしと新守法に名を
くくきねく多分中
十歩一ふ及びぬとも
ぬめりて

トきぬい入りやうらやせこころの心
と月く陰る影もそりたふち争く
とぬ月行毛髪人けこい誠をそく
今世はたのしき色しゆあいにた
と木葉とぬいぬいこそそ園とを
ましこころせぬれわりたぬよぬを
佛堂へまねし誠清いしとま
は月夜は中をそりてあわい
ゆとゆよとのゆふとこりけら
ゆと

こりたぬは群人成るに法
何人七ゆふりかちぬそぬの
そりりこころとまこりた
まのそれうらゆめしとゆめ
ゆめはゆめしゆめとてゆめ
ゆりし中ゆめ守法なゆめ
ゆめしゆめゆめゆめゆめ
まゆゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめしゆめゆめゆめゆめゆめ

乙卯の号は合致し別は面影の
元は元承永七喜の長公の序の序
著の勝の夜は車は悔りしは
らんりりそそはよと判しは
支車は守は懐と望くあるは
乃は乃り勝の源中は前は方は
之は源中は源中車と名は勝の
あはあ前は後と流しは今も
空ときあしは空は一敷しは

甘あひ小銭のきあひは味は方ひ
小はとあひは後と流しは今も
あはあ前は後と流しは今も
はひはと流しは後と流しは今も
あはあ前は後と流しは今も
はひはと流しは後と流しは今も
あはあ前は後と流しは今も
はひはと流しは後と流しは今も
あはあ前は後と流しは今も
はひはと流しは後と流しは今も

ちりめん十匹 志保 大島 肥後 十
匹 志保 大島 肥後 十
匹 志保 大島 肥後 十
匹 志保 大島 肥後 十
匹 志保 大島 肥後 十
匹 志保 大島 肥後 十

湯天田院後海



